

『新』道の駅むらやま整備基本構想



村山駅西地区の状況(H29.3.16 現在)

平成29年3月

『新』道の駅むらやま建設に向けた庁内検討会

1.『新』道の駅むらやまの必要性

現在事業中の東北中央自動車道の建設にあわせて設置される村山インターチェンジ（以下、村山 IC(仮)）は、無料区間に位置するため SA・PA が整備されないことから、IC 近傍型の休憩施設整備の必要性が高まっています。

また、村山 IC(仮)設置に伴い、国道 13 号の交通量が 6 割程度に減ると予想されていることから、現在国道 13 号沿いに立地する「道の駅むらやま」の利便性、情報発信力、集客力が大きく低下することが考えられます。本市の将来における持続的発展のため、村山 IC(仮)から村山駅西地区の総合的な整備の動向も視野に入れた、『新』道の駅むらやまの整備が必要とされています。

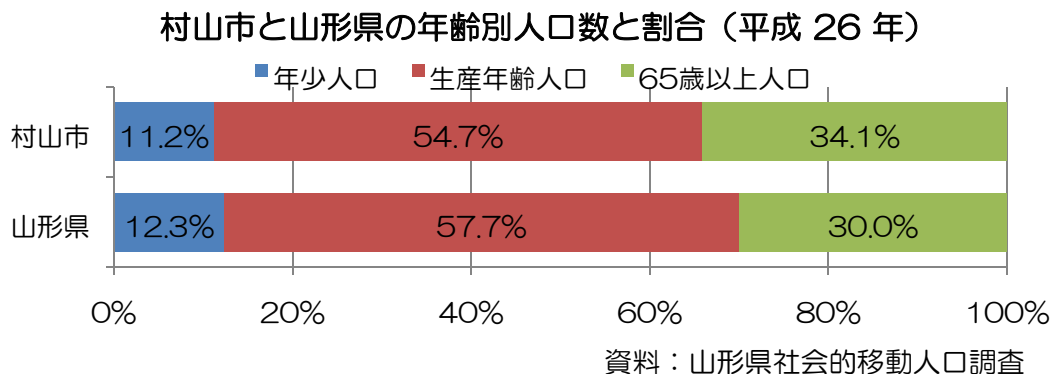
1)地域の現状と課題

(1)人口動向

【現状】

昭和22年以降減少傾向に転じ、平成27年国勢調査確定値では24,684人となっており、今後も減少し続けることが予測されています。

このような人口減少と同時に少子高齢化も顕著に進行しており、特に老年人口の割合（市内総人口に占める65歳以上の人口）は平成26年時点では34.1%であり、山形県全体の老年人口割合30.0%との比較差は4.1ポイントとなっています。



【課題】

地域のにぎわいや活力の原資ともいえる人口の減少と少子高齢化は、本市だけでなく 周辺市町村でも同様に進行しており、このような現象を受け入れつつ、将来的にも地域としてのにぎわいや活力を維持、継承し続けていくためには、村山市民としての誇りの醸成、向上と地場産業の活性化による地元雇用機会の拡大などによる流出人口の抑制を図る必要があります。

また、これと同時に、より積極的な地域の魅力づけや情報発信等による移住者(UJIターンや二地域居住者を含む)や観光客(外国人を含む)などの多様な交流人口の獲得、増大に取り組む必要があります。

(2) 産業動向

i. 農業

【現 状】

村山市は、気候風土を活かし水稻を中心とした多種多様な農業に取り組んでいますが、近年では農業従事者の減少と同時に高齢化が進行しており、農家人口は総人口の約35%を占めているが、後継者不足により農業人口が年々減少しています。また、このような状況と共に農地に対する土地所有者側の価値観の多様化などを背景として耕作放棄地等も見受けられます。

農家数と農家人口の推移

年次	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
総農家数(戸)	3,705	3,386	3,062	2,753
農家人口(人)	17,581	15,647	10,863	8,630

資料：農業センサス

【課 題】

本市に住み続けていることへの誇りの醸成、向上と地元地域として誇れる美しい郷土的景観を保持、継承し続けるためには、農地の健全な利用と、これに伴う美しい郷土的景観を保全することが望まれます。農業技術の継承と各種農地の健全な利用を実現していくためには、より多くの担い手を獲得するための営農者所得の拡大に向けた施策の展開とともに、消費者の価値観や消費形態の変化等へのより柔軟な対処に努めつつ、6次産業化の推進など地元農業の活性化に取り組む必要があります。

ii. 観光

【現 状】

村山市には、毎年8月に開催され、山形県を代表するまつりとなっている「むらやま徳内まつり」があります。

また、徳内まつり以外にも魅力的な地域資源を多く有しており、特に、日本有数の「東沢バラ公園」、全国に先駆けて「そば街道」を設定した「最上川三難所そば街道」、ギネスブックの記録を有する「長板そば三十三間堂」のそばまつりなど、全国に誇れる地域観光資源が多くあります。

【課 題】

これらの魅力的な地域観光資源を村山市の持続的な発展にいかに関結び付けることができるか、そして産業としての観光にどう結び付けられるかなどが課題となっています。

全国各地からの観光客、また近年機運が高まっている外国人観光客の誘致も必要ですが、特に来客数の多い、あるいはリピーターとして来てくれる可能性の高い、100万都市である仙台圏域からの観光客をターゲットにした具体的な取組や、より魅力的な観光誘致策が求められています。

2) 公共施設としての『新』道の駅むらやまの必要性

i. 交流人口の拡大

すでに人口減少期を迎えている中で市のにぎわいや活力を維持、継承していくことに当たっては、市外から訪れる観光客や買い物客などを中心とした交流人口が大きな役割を担います。

周辺地域を含め多種多様な集客施設がある中で本市の交流人口を拡大するためには、市固有の地域資源を最大限に活かし得る「交流の場」を確保する必要があります。

ii. 定住人口の保持

市内人口が減少する中で、地域活力を維持、継承していくためには、交流人口の拡大と同時に、定住人口を保持し続けることが求められます。

本市の人口流出の抑制に向け地域でつながりを強めるためには、異世代間や新たな転入世帯を含む新旧住民(古くから地域に住んでいる方とUJIターンなど新たに住んでいる方々等)など、様々な住民と住民との日常生活における「ふれあいの場」を確保する必要があります。

iii. 地場産業の活性化

市内では、農業をはじめ、商業、工業及び観光・サービス業など、多様な産業活動が展開されていますが、地域を取り巻く様々な環境の変化により、これらの地場産業についてはいずれも低迷した状況が続いています。

広域交通利便性の向上などを背景に地域間競争が激化する中で、本市の産業全般が持続的に発展し続けるためには、地域の「強み」を最大限に活かしながら新たな取り組み踏み出せる「地場産業の活力創造の場」を確保する必要があります。

iv. 市内人口の流出の抑制

本市では、周辺市町と同様、定住人口の減少と同時に、少子高齢化が急速に進んでいます。このような人口減少・人口流出に歯止めを掛け、地域的なにぎわいや消費活動を維持、拡大していくためには、子育て世代を含む女性や若者、高齢者などをも対象とした身近な「雇用・就労の場や生きがいの場」を確保する必要があります。

v. 郷土文化の保持、継承

市内各地では、市の代名詞である徳内ばやし、民俗芸能、食文化、地元文化が受け継がれています。しかし、近年では耕作放棄地や荒廃森林及び空き家などが多く見受けられ、過疎化の進行あるいは地域コミュニティの弱体化が懸念されています。

地元意識の希薄化や社会環境の画一化が進む中で、ここに暮らす誇りや愛着を持ち続けながら市固有の歴史・風土や伝統、食文化などを次世代に伝えていくためには、これらの地域資源を守り続ける「郷土文化の保持・継承の場」を確保する必要があります。

3) 『新』道の駅むらやまの役割

今般新たに整備しようとする『新』道の駅むらやまは、農業をはじめとする各種地場産業により生産、製造される多様な商品、製造品などの紹介と販売により、これらに関する情報を発信、提供するアンテナショップ的な役割が期待できます。

また、村山 IC (仮) から村山駅西地区の総合的な整備の動向も視野に入れた計画地を設定した場合、東北中央自動車道、国道13号線、J R、高速バスなどの多様な交通機関の拠点としての機能を持たせることにより、道路交通ネットワークの強化及び、広域交通の利便性の向上、さらには観光・交流機会の増大等、大きな役割が期待できます。

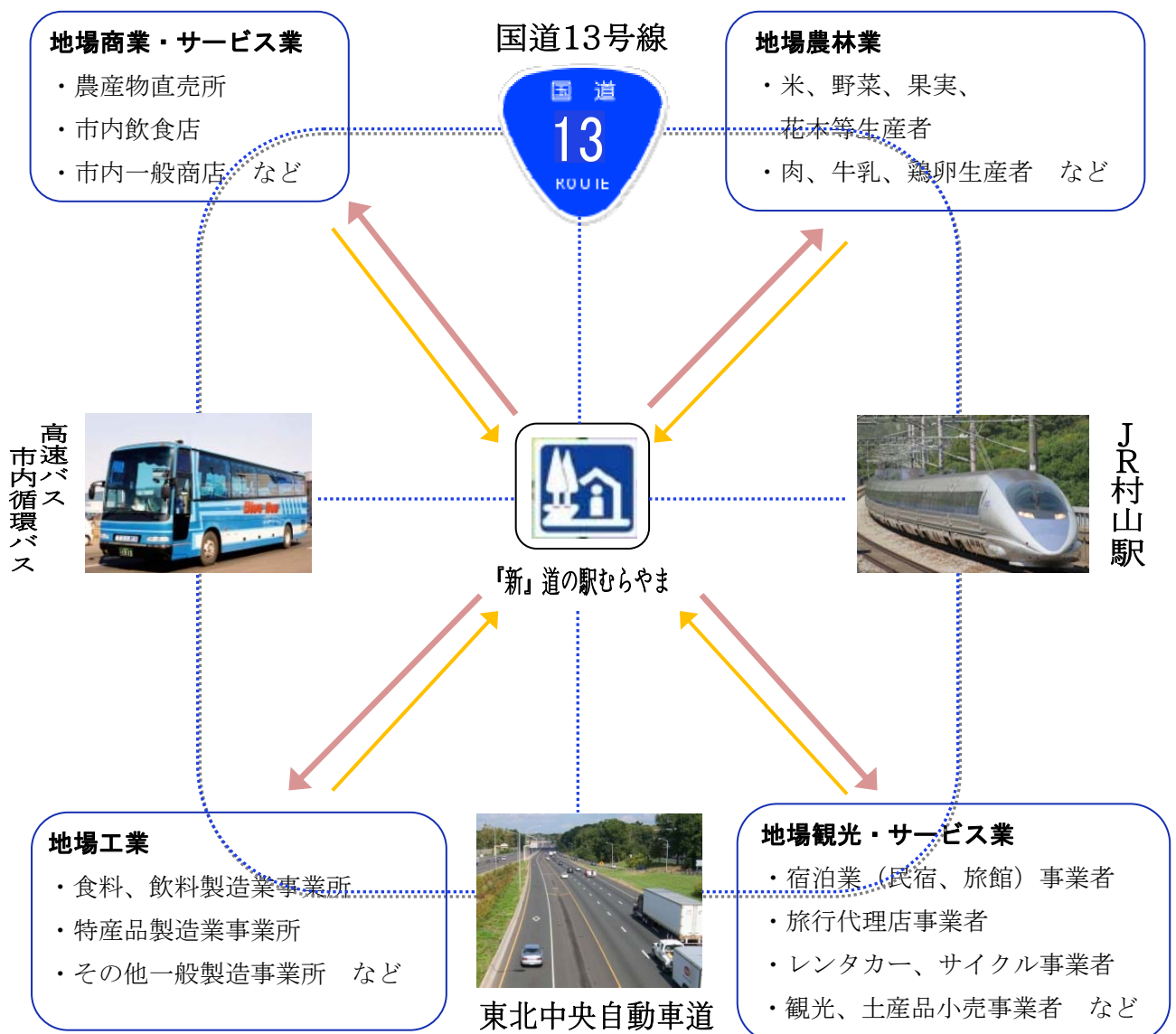


図. 『新』道の駅むらやまが生み出す産業と交通の循環

2. 整備コンセプト

1) 整備コンセプト

前章で明らかにした村山市の『新』道の駅むらやまの必要性」とこれに「期待する役割」を踏まえ、当該道の駅の整備コンセプトは

『おいしい山形』の**交通・観光・交流**の拠点として

いつでも(**Everyday**) だれでも(**Everybody**) 楽しめる(**Enjoy**)

E! E! E!

あんばい・いい 道の駅 むらやま

と設定します。

このコンセプトは、新施設に求める村山市の『にぎわいの創造』、『交通・観光拠点』、『文化の体験』という3つの要素を盛り込み、それらを包括するコンセプトとして決定しました。

また、山形空港の愛称でもあり、山形県のグルメ・観光を発信する愛称となっている、『おいしい山形』というフレーズを採用し、「山形県のなかでより耀く村山市」、「村山地方において中核を担う村山市」という立ち位置で、交通・観光・交流の拠点化を目指す意思を込めたものです。

2) 基本方針

上記の整備コンセプトをより具体化した、「10の基本方針」を設定します。

現在の村山市が持つ魅力と課題を『内部要素』とし、近い将来実現する東北中央自動車道の延伸・村山IC(仮)の設置に伴う機会(チャンス)と脅威(リスク)を『外部要因』としてとらえ、相互の関係性から、より今の村山市に適した、また今の村山市に必要な新施設を計画するための基本となるものです。

1) 基本方針

<p>【村山市の将来像】</p> <p>村山市の基本理念(第5次総合計画より) ～次の世代へ引き継ぐ 魅力ある村山市を創る～</p> <p>『新』道の駅の基本コンセプト 『おいしい山形』の交通・観光・交流の 拠点としていつでも(Everyday)だれでも (Everybody)楽しめる(Enjoy) あんばい・い・い 道の駅 むらやま</p>	<p>村山市の内部要素</p>	
<p>【機会 (チャンス)】</p> <p>■道路ネットワークの強化 ・移動経路、手段の多様化 ・交通渋滞の緩和 ・広域的な周遊性の充実 ・大規模災害時の機能拡充</p> <p>■広域交通利便性の向上 ・旅客、物流効率の向上 ・交流人口の拡大(就業、観光) ・地域間連携の促進、強化 (医療、教育、買い物)</p>	<p>【強み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最上川、葉山、甌岳、田園等の豊かな景観 2. バラ公園、基点温泉、そば街道、舟下り等の魅力ある観光 3. 日本酒、そば、じゅんさい、漬物、果物等のおいしい特産品 4. 居合神社、徳内まつり、熊野神社、大わらじ等の伝統文化 5. R13、R48、山形空港、新幹線停車駅等の交通網の利便性 <p>【強み×機会】</p> <p>東北中央自動車道の延伸を機会として捉え、市の強みを活かしながら将来像の実現を目指します。</p> <p>■基本方針1：市の多様な魅力を積極的に発信、提供します。 東北中央自動車道の延伸を期に、集客規模の拡大と村山市の知名度の向上に向け、地場産業をはじめ観光やレジャー、郷土料理などの旬な情報を積極的に発信、提供します。</p> <p>■基本方針2：外国人観光客の受け入れ態勢を充実させます。 宗教や国籍、人種、身上にとらわれないユニバーサルデザインを徹底し、積極的に市の伝統文化を発信し、外国人観光客を受け入れます。</p> <p>■基本方針3：道路ネットワークの主要施設化を目指します。 山形空港、新幹線、村山IC、R13、R48の地の利を活かし、それぞれを通過・利用する交通者の主要な休憩・立寄り施設としてポジションを確立させます。</p>	<p>【弱み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 働く場所、企業が少ない 2. 家を建てたくなるような良好な住宅地が無い 3. 定住人口の減少と、少子高齢化の急速な進行 4. 遊びに行きたくなるような魅力ある施設が少ない 5. 担い手不足などによる農林業の低迷 6. 冬期間の降雪が多く、除雪の負担が大きい <p>【弱み×機会】</p> <p>東北中央自動車道の延伸を機会として捉え、市の弱みの克服、解消緩和を図ります。</p> <p>■基本方針6：市民の身近な雇用・就業・生きがい機会を拡大します。 交流人口の増加による各種地場産業への波及効果を期待しながら新たに整備する産業関連施設として高齢者をはじめ、女性や若年層子育て世代など市内で暮らすあらゆる就業者に対する身近な雇用・就業・生きがいの場としての機能確保を図ります</p> <p>■基本方針7：地場特産品のブランド力の強化を図ります。 地場産業、イベント、郷土文化に至る多様且つ旬な情報を発信し、特産品のブランド化とブランド力の強化を図ります</p> <p>■基本方針8：定住人口の拡大を目指します。 交流人口の拡大を機会に、良好な住宅地の紹介、子育て支援などの情報を積極的に発信し、定住人口の拡大を目指します。</p>
<p>【脅威 (リスク)】</p> <p>■定住者や消費者などの市外流出の誘発、増長</p> <p>■周辺市町村との競合の激化</p> <p>■自動車(通過のみ)交通量の増大 ・国道13号線の交通量の減少 ・沿道居住、農業生産環境の阻害 (騒音、粉塵、振動など)</p> <p>■景観の阻害 ・高速道路による眺望阻害 ・田園風景にそぐわない道路</p>	<p>【強み×脅威】</p> <p>東北中央自動車道の延伸を脅威として捉え、市の強みを活かしながら克服、解消、緩和を図ります。</p> <p>■基本方針4：地元関係者を中心にふれあい機能を充実させます。 外国人観光客をはじめとする広域的な来場者だけでなく、地元特産品の生産者と消費者と新旧住民、異世代間等の多様な来場者の固定客化、リピーター化に向け、地元関係者を中心とした出会い・ふれあいの場としての機能を充実させます。</p> <p>■基本方針5：地域固有資源として新たな魅力付けを図ります。 市民としての誇りや地域への愛着などの向上に向け、新たな公共施設として地域的な役割や空間的な意匠、景観。料理、イベント等、様々な面において市に不可欠な固有施設として確立させ、他の市町村との差別化を図ります。</p>	<p>【弱み×脅威】</p> <p>東北中央自動車道の延伸を脅威として捉え、市の弱みの抑制を図ります。</p> <p>■基本方針9：自然的な環境と景観との調和を図ります。 高速道路交通量の増加の悪影響を見据え、自然環境や郷土的景観の保全を図ります。また自然環境負荷の軽減・抑制策として積極的に自然エネルギーの導入を図り、環境都市村山と呼べるにふさわしい先鋭的な設備、機能を有した施設づくりを目指します。</p> <p>■基本方針10：オール村山市で取り組みます。 市の将来像の実現に向け、各種特産品生産者や事業所はもとより、NPO法人やボランティア団体、青年会議所、老人クラブ等の市民団体。農業協同組合、商工会、観光物産協会等の多様な団体によるオール村山市体制での取り組みを目指します。</p>

村山市の外部要因：東北中央自動車道の延伸・村山IC設置

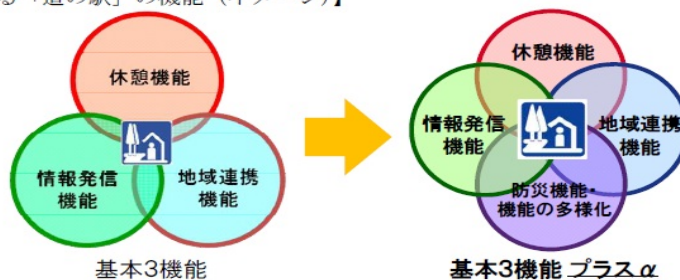
3. 導入機能

1) 導入機能

従来より「道の駅」は、道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスの提供を図るため、①休憩機能、②情報発信機能、③地域連携機能の3つの機能を備えた道路施設でしたが、近年は農業・観光・福祉・防災・文化など、地域の個性、魅力を活かした様々な取り組みがなされています。

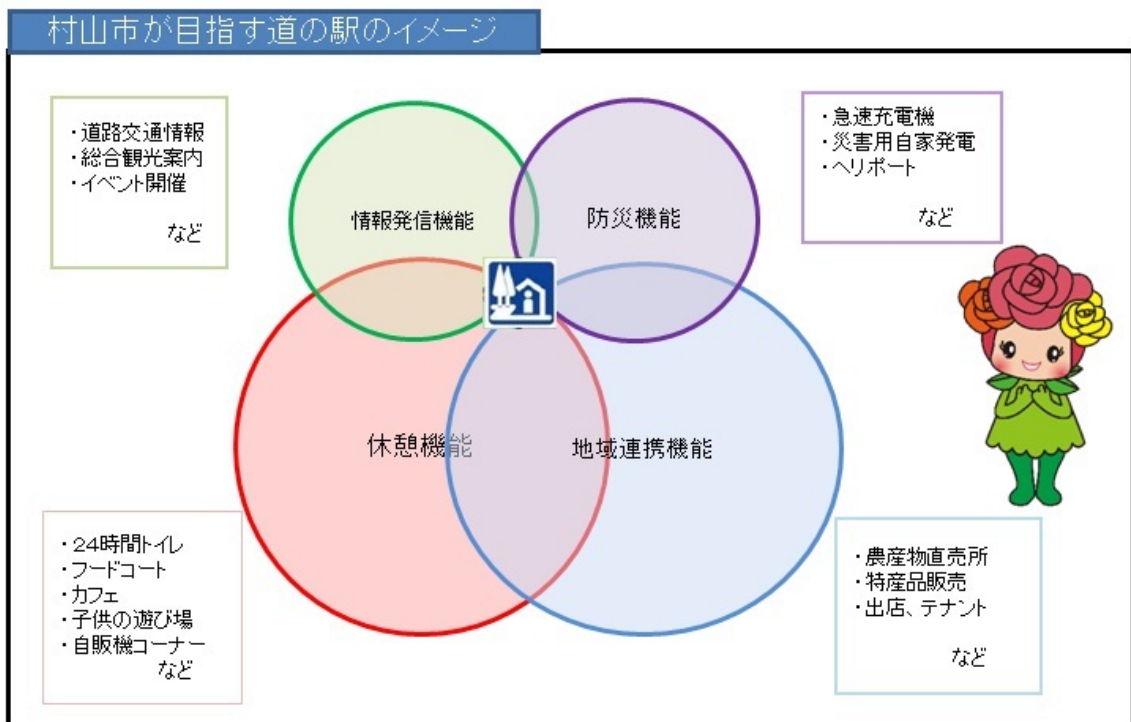
これからの道の駅は「地域の拠点機能の強化」と「ネットワーク化」を重視し、「道の駅」自体が目的地となるよう、また、理想とする村山市の将来像を実現するための施設となるよう計画していきます。

【多様化する「道の駅」の機能（イメージ）】



上記の基本の3機能+αの機能の配分を調整し、こういった機能バランスを持った道の駅が、今の村山市にふさわしいのかを検討しました。

第1章で明らかにした村山市の『『新』道の駅むらやまの必要性』と、これに「期待する役割」から、また、前項で設定した「整備コンセプト」並びに「10の基本方針」を実現させるためには、下図のような『休憩機能』と『地域連携機能』をメインとした道の駅の計画が望ましいと考えます。



前頁で提示した「村山市が目指す道の駅のイメージ」の実現に向けた、具体的な機能と設備を以下に示します。

(1) 休憩機能

i. 駐車場、駐輪場など

来場者の利便性、快適性及び安全性の確保と合わせ、高速道路利用者の休憩や大型トラックの来場にも対応できるものとし、近傍の類似施設なども参考としながら、余裕のある規模の駐車場の確保に努めます。

ii. 無料休憩所と24時間トイレ

道路交通者のために24時間利用可能な休憩所と清潔なトイレを設けます。利用者の利便性を向上するために、自販機コーナーを設置しコンビニエンスストアのテナントスペースを確保し店舗誘致に努めます。

iii. フードコート

飲食物の提供はフードコート型とし、フードコートの傍に出店テナントのブースを配置する計画とします。各ブースには必要最低限の、電気、給排水設備を設置し、出店者を募ります。これにより設備機器の簡素化と飲食スペースの合理化が図られるうえ、バリエーション豊富な飲食物の提供、地場の食材を利用した料理の提供、さらには地元出店者の起業機会の創出などが期待できます。

従来のレストラン型での飲食物の提供は、座席スペースをはじめ、厨房、食品庫、配膳室など多くのスペースと設備を必要とします。また、常に人的配置も必要となり、合理性を欠くことから、新施設への導入については慎重に検討します。

iv. 子供の遊び場

近年需要が多い、子供の遊び場スペースを施設の内外に配置します。これにより、子育て世代の集客と、施設のにぎわい効果が期待出来ます。

また、子育てイベントなどの開催も企画しやすくなり、新施設にさらなる賑わいと交流が生まれ、ひいては定住人口の拡大につながることを期待し計画します。

ただし、新施設開所時から導入するには、床面積が大きく、工事費も過大となることから、あらかじめ増築スペース、屋外広場スペースを考慮し、将来的な導入を見据えた施設の配置計画とします。

(2) 地域振興機能

i. 農産物直売所

市外からの来場者はもとより、市内関係者も主な利用者として見込みつつ、米、野菜果物、花きなど生産者の顔が見える安全・安心・高品質な地場農産物を中心とする、明るく開放的な農産物直売所を設けます。

ii. 特産品販売所

地元企業が生産している加工食品や、地元産の食材を使った食品、地酒など、既に商品化されているものとともに、今後開発される6次産業化や地域ブランド化などによる新たな商品など、村山市ならではの商品を品揃えとする特産品販売所を設けます。

iii. 農業体験所（農産物加工所）

基幹産業である農業に親しみ、将来の担い手育成や、他の類似施設との差別化を図るために農業体験所を計画します。収穫体験や、農家のサポーター事業のマッチング、就農支援情報の提供など、農業振興に役立つ情報を提供する場を計画します。

また、地場食材を使った弁当や総菜などの製造や、6次産業化商品や地域ブランド化商品などの開発拠点としての機能を期待する農産物加工所の設置を検討します。

(3) 情報発信機能

i. 総合観光案内所

市の玄関口ともなる本施設には、高速道路IC、国道13号線、JR村山駅などの広域交通結節拠点に近接した立地特性と、自然的資源から歴史・文化的資源に至る様々な地域固有資源が点在する地域特性を活かし、総合観光案内所の設置を計画します。

ii. 情報発信コーナー

利用者の利便性を考え、外国人観光客なども対象とするユニバーサルデザインを基本にしながら、前項に示した24時間休憩所と一体的な情報発信コーナーの設置を計画します。

なお、当該コーナーは、市外からの来場者だけではなく、地元住民の利用も見込みつつ、道路・交通関連情報をはじめ、気象・災害情報、観光・イベント・宿泊施設情報、市の紹介・季節のイベント・旬の地場食材情報及び医療機関・空き家・ボランティア情報など、多様な情報の発信・提供に努めます。

iii. 高速バス、市内循環バスの発着所

高速道路IC、国道13号線、JR村山駅に近いエリアを計画予定地とした場合、その特性を活かして、高速バス・市内循環バスの発着所の機能を持たせます。

公共交通機関の利便性を向上することにより、県内外の観光客の集客をはじめ、市内観光、交流人口の拡大など相乗効果が期待出来ます。

(4) 防災機能

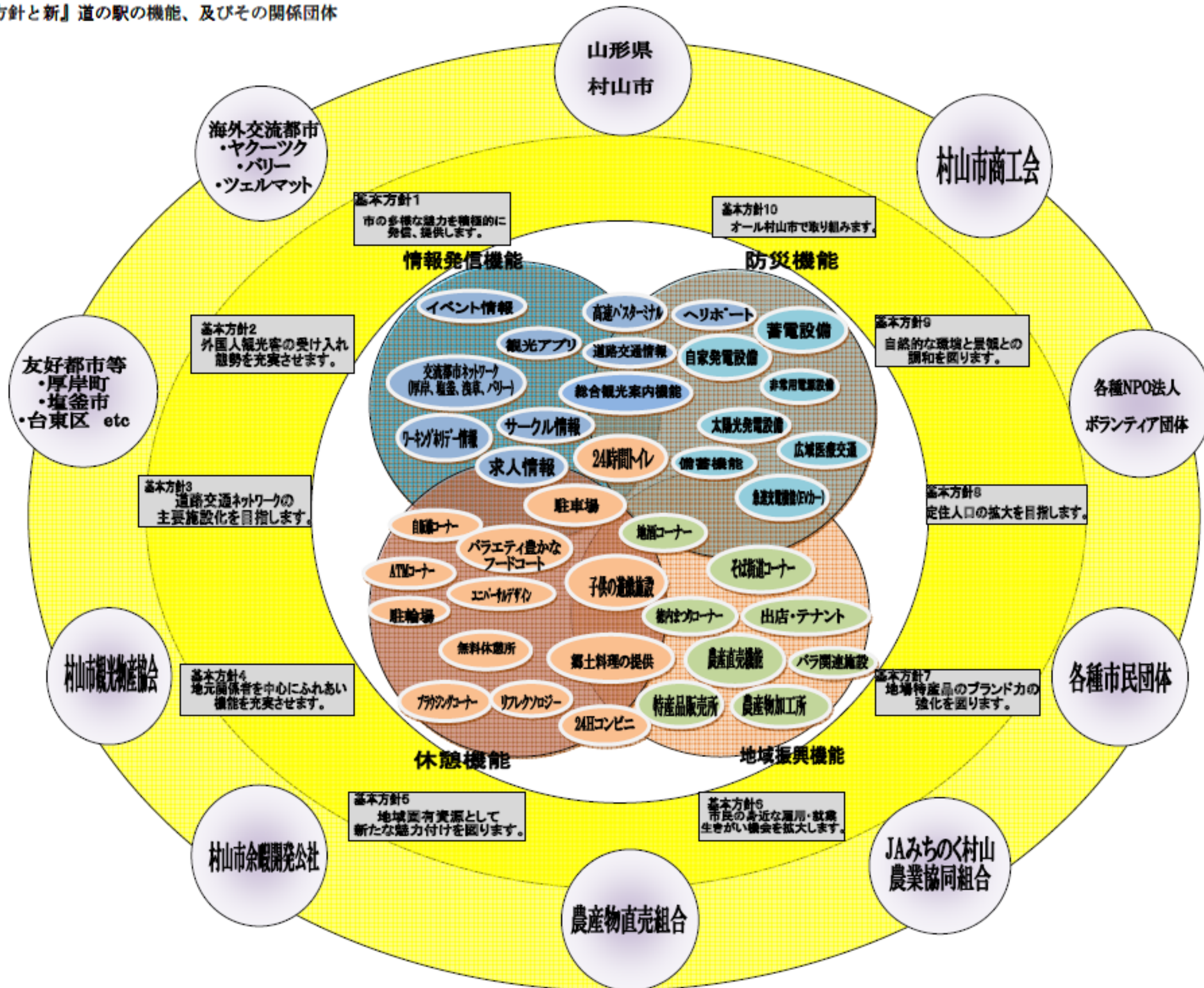
大規模地震などの災害時に備え、防災拠点施設としての機能を備えます。
 停電時にも情報を提供できるよう、非常電源や自家発電設備を備え、水や毛布、食糧などを蓄える備蓄倉庫、太陽光発電設備などを備え、有事に役立つ施設とします。
 また、物資の輸送や広域医療に有効なヘリポートを設置します。

2) 各施設規模とそのイメージ

機能別の概略施設規模と関連諸室

	主要室	規模	イメージ	関連諸室	備考
休憩機能	24時間トイレ	中規模	清潔		
	多目的トイレ	適宜	清潔		
	無料休憩所	適宜	くつろげる	喫煙スペース	
	無料駐車場	大規模	便利、安全		
	フードコート	中規模	明るく開放的	出店ブース	地域振興機能も兼ねる
	子供の遊び場（屋内）	（大規模）			将来的に導入
	子供の遊び場（屋外）	（大規模）			将来的に導入
	コンビニテナント	適宜			24時間営業
	自販機コーナー	適宜			24時間営業
地域振興機能	農産物直売所	大規模	明るく開放的 新鮮・高品質 生産者の顔が見える	荷解き室 管理事務室 休憩室	
	特産品販売所	中規模			
	農業体験所	小規模			
	フードコート	中規模	明るく開放的	出店ブース	郷土料理等の提供も含む
情報発信機能	管理事務室	中規模		駅長室 休憩室 更衣室（男女） 給湯室	
	観光案内所	小規模	尋ねやすい		農業体験事務局
	道路交通情報	小規模	わかりやすい		
	バスターミナル	適宜	便利	待合所 喫煙スペース	
	姉妹友好都市コーナー	小規模			
防災機能	備蓄機能	適宜		備蓄庫 荷解き室	
	ヘリポート	適宜			
	E V急速充電機	適宜			
	太陽光発電設備	適宜			
	蓄電池設備	適宜			
	非常電源設備	適宜			
	自家発電設備	適宜			

新施設計画にあたり、上記の機能別施設、並びに基本方針及び、関係する市内団体との関わり合いについての相関図（計画イメージ図）を次ページに示します。



『新』道の駅むらやま整備基本構想

平成29年3月

作成 『新』道の駅建設に向けた庁内検討会議

検討メンバー

政策推進課	主幹	宮古 浩
	政策企画主査	西塚 仁
	政策企画主査	奥山寛幸
税務課	住民税係長	安達智洋
農林課	農業振興主査	佐藤政史
	主事	米屋奈保子
商工観光課	商工労政係長	和田貴充
建設課(事務局)	課長補佐	片桐正則
	管理係長	三澤孝一郎
	主任	狩野善男